

編集後記

●今回のキャッチアップは、滋賀県および民間企業との管理者参加型共同研究として実施している「改質乾燥による汚泥燃料化」をとり上げました。脱水汚泥に直接蒸気を供給し、一定の圧力をかけることで連続的な改質を行い、乾燥させてバイオ燃料とする画期的な技術です。湖南中部浄化センター内で順調に稼働するパイロットプラントを取材し、現場の写真とともに紹介いたしました。今後の本格的な展開が期待されています。

●メッセージは、就任間もない国土交通省都市・地域整備局の松井正樹下水道部長に「人を理解した安全技術を」と題して執筆していただきました。松井部長はこの中で、「安全」に到達点はなく、それに対する対策は常に進化していかなければならないと独自の見解を示すとともに、その対策の根幹をなすのは「技術革新」であると結論づけています。

●今号では、今年の7月下旬に下水道展に合わせて開催したローランド・W・ワニエクIKT所長の来日記念講演と、9月に開かれた技術サロンにおいてゲストとしてお招きした吉村和就グローバル・ウォータ・ジャパン代表の講演を編集して掲載いたしました。ワニエク氏は、ドイツにおける

下水道管更生技術の品質管理の現状と課題を、また、吉村氏は、世界の水ビジネスの動向と日本の対応策について貴重なお話をされています。是非ともご一読ください。

●エンジニアリングリポートは、近年多発する局地的豪雨に対応するための「雨水ポンプ場ネットワーク計画に関する研究」と省スペース化・省エネルギー化を目指した「二重円筒加圧脱水機に関する研究」をわかりやすくまとめました。

●トピックスは、山形県新庄市とバイオソリッドエナジー（株）、日本製紙（株）岩沼工場が共同で行っている下水汚泥の燃料化実証事業の現場を取材しました。ペレット状に成形した脱水汚泥を、木チップを主燃料とした熱風で直接乾燥させ、これを製紙会社の石炭ボイラの補助燃料として使用するという事業スキームは注目に値します。

●ユーザーリポートは、その利便性から全国各地で採用事例の多くなってきた「マンホールポンプシステム」をとりあげました。取材した函館市では、戸井町との合併を見越して、ポンプの一元管理システムを取り入れ、省力化とコスト縮減に成功しています。皆様の参考になれば幸いです。

(編集委員一同)

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、石川洋一本機構研究第一部研究員の長女の友望（ともみ）ちゃん（2歳）です。

この写真は、横浜の保土ヶ谷公園に家族で遊びに行った時のものだそうです。広い公園の中を元気いっぱい走りまわると友望ちゃん。水玉模様のスカートがすごくお似合いですね。つい最近までご両親の側を離れることができない怖がり屋さんでしたが、この頃では、花や犬、猫、鳩に興味を持つようになり、お友達とも遊べるようになってきたそうです。日増しに活発な姿を見せてくれるようになってきた友望ちゃん。その成長をご両親もとても楽しみにしています。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・葉山莞児
(大成建設株式会社代表取締役会長、(社)日本土木工業会会長)の揮毫によるものです。

季刊 下水道機構情報 Vol. 2 No. 6
2008年10月〈秋季号〉

平成20年10月24日発行 発行者 葉山莞児
編集者 石川忠男
企画者 江藤隆

編集委員：栗原 秀人／中里 卓治／森島 嘉浩／小代 竜司／
高瀬 行廣／斉藤 実／岩下 真理／鳥海 弘／御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512